

文化情報のデジタル・アーカイブの実践的研究【3】

— 「飛騨一之宮地域」における地域文化の記録からの考察 —

A practical study of a digital archive of culture information[Ⅲ]

松井久美子^{*1}／久世均^{*2}／齋藤陽子^{*3}／東田治^{*4}／森瀬一幸^{*5}

あらゆる文化の基礎は、地域の伝統文化にあり、われわれはこれらの伝統の先端にあつて、その伝統文化を同時代性でもって創造していくことが、文化の創造であると考えている。来るべき「成熟した時代」の日本文化を支えるものがこの伝統文化であるが、今日適切な手が打たれぬまま、それらが失われようとしている。これらの文化に対する理解が本研究の基本である。そしてこの状態に際して、何らかの手を打つことが求められている。

ここでは、このような地域の伝統文化に関する教育を支援するための地域資料のデジタル・アーカイブにおける地域情報の構造化について「飛騨一之宮地域」を例にして研究をしたので報告する。

<キーワード>

デジタル・アーカイブ、地域資料、伝統文化、文化遺伝子

1. はじめに

伝統文化は、歴史のなかで常に同時代性ある文化として現在まで継承されてきた。それはそれぞれの地域の発展と成長とともにその形を創造的に変え、今日に継承されてきている。今回取り上げた飛騨一之宮地域文化も同様に、飛騨一之宮という地域の発展と共に創造的に変化しながら今日に継承されてきた伝統文化である。

従って、この研究は「飛騨一之宮地域」の歴史的な文化遺産をデジタル・アーカイブしたのではなく、『伝統の先端にいる現在において生活している人が創造している文化』をデジタル・アーカイブしたものであり、地域における地域文化の伝承をみたものである。そしてこのような地域文化こそが、支援されていくべきものではないかと考える。

しかし、地域の伝統文化を伝承するためには、伝統文化は地域や生活と密着した文化であるが故に、単なる資金助成だけでは伝統文化には必ずしも良い効果を生むとは限らない。伝統文化における創造と発展、これがそれぞ

れの地域の個性ある文化の創造であり、地域の創造、活性化の源である。全国のなかでも比較的伝統文化が豊かに継承されている飛騨地域の地域文化が、それらを同時代性ある活動として活性化していくことで、多様で豊かな社会を創りあげることが期待される。

また、本学がそのような地域社会を形成していく活動に対して、適切な形で協働していけるとすれば、それは非常に大きな意義を持つものである。

また、飛騨一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげることができる。

2. 地域の中학생に対するアンケート

本事業を始める前に、飛騨一之宮地域について町内のこの地域について今後この地域の文化を継承すると予想される中学生（1年28名、2年21名、3年19名、合計68名）

論文受理日：平成23年9月25日

*Mtsui Kumiko, *2 KUZE Hitoshi, *SAITO Yoko, :岐阜女子大学, *4HIGASHIDA Osamu : 高山市市役所,

*5MORISE Kazuyuki: 岐阜女子大学

を対象に次のようなアンケートを実施した。

(1) 飛騨一之宮地域について、ここがいいところだとか、誇りに思うところだといえること。

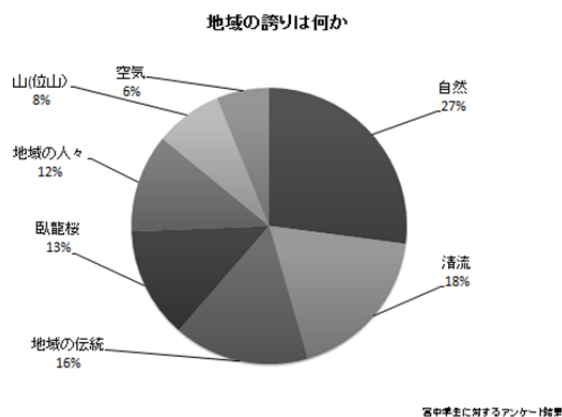


図1 地域のプライド

その結果、中学生が地域の誇りとして「自然 (27%)」、「清流 (18%)」、「地域の伝統 (16%)」、「臥龍桜 (13%)」、「地域の人々 (12%)」と回答している。自然が多い地域である特色が出ている回答であった。

(2) 飛騨一之宮地域のくらしが豊かになるためには、どんなことに力を入れたらよいか。

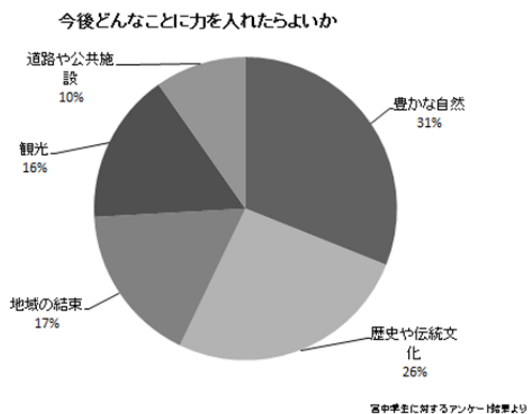


図2 今後、どんなことに力を入れるか

この設問では、「豊かな自然を大切にする (31%)」が一番多く回答している。そして、次に、「歴史や伝統文化を守る (26%)」、「地域の結束を一層深める (17%)」と回答している。このことは、設問1と関連づけて考えると、中学生の多くが、地域の清流や山などの自然を大切に、地域の宝として地域の歴史や伝統を守ることが大切であると認識しているこ

とである。

(3) あなたは、将来飛騨一之宮地域とどのようにかかわっていきたいのか。

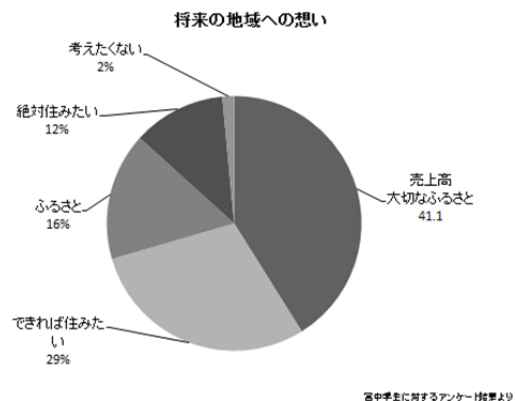


図3 将来の地域への想い

この設問では、中学生が将来地域にどのようにかかわるかという設問であるが、「将来、自分の大切なふるさととして想い続けるだろう (41%)」が最も多く、「将来、できればこの地域に住みたい (29%)」、「将来、普通に自分のふるさととして考えるだろう (16%)」の順となり、「将来、絶対にこの地域に住みたい (12%)」と回答した中学生が少ないのが特色である。

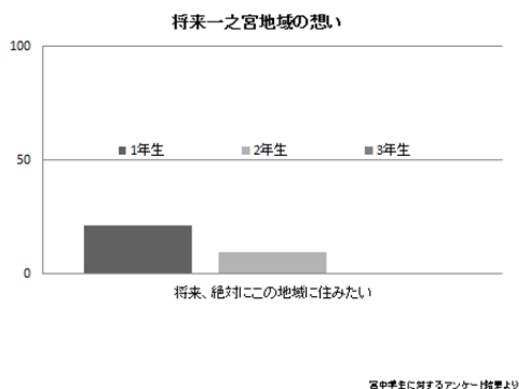


図4 将来の地域への想い

ここで、「将来、絶対にこの地域に住みたい (12%)」を学年別に見ると、「1年生 (21.4%)」、「2年生 (9.5%)」、「3年生 (0%)」となり、「将来、絶対にこの地域に住みたい」と回答している中学生が、学年ごとに減少し、3年生では、この地域に住みたいと回答している中学生が一人もいないという現実が見えてきた。多くの中学生が、地域の自然や伝統文化を

守ることが大切であると感じているが、3年生の時点では、63.2%の中学生は、この地域を「ふるさと」として感じたいと考え、この地域に将来、住む魅力を感じていない。勿論、その原因として職場不足や自然の厳しさもあるが、飛騨一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価することが、伝統文化による地域づくりが若者を地域に引き留めるために必要である。

地域の伝統文化による地域づくりを進めるには、まず、地域住民に地域の伝統文化を周知し、共通認識として確立することが必要である。また、住民の行動範囲が拡大し自らが情報収集できる時代にあって、インターネットなど多様な情報媒体による多種多様な情報が錯綜している中、住民の関心・興味を引き出すような情報発信能力を向上することが重要である。さらに、地域の伝統文化は、幼少の頃から、お年寄りまで多くの世代で共有することが重要であるため、その世代に応じたコンテンツも用意することが望まれる。

また、地域の伝統文化による地域づくりを実践するためには、取り組み主体から情報を発信するだけでなく、今後の展開を検討する上では地域住民の意見や他地域の情報を収集することが不可欠である。

3. 「若者による一之宮地域文化の再発見事業」

「地域」とは、地理的な条件や気候的条件、いわゆる風土とそこに住む人々の資質や活動により成り立っているものである。しかし、先に示した中学生のアンケート結果でも示すように、人の移動の高速化、広範化が進むとともに、情報交換手段の高度化が進み、「地域」という枠がなくなり、地域の空洞化が深刻化してきている。そのため、これまで地域で育まれてきた地域の誇りやコミュニティが希薄となり、さらなる空洞化が進むという悪循環に陥っている。その打開策として、地域の独自性や創意工夫による地域づくりが進められているが、その際、重要なポイントとなるのは、地域がこれまでに守り受け継いできた文化遺伝子である。文化遺伝子を再発見し、守り受け継ぐことにより、いわゆる地域に根ざした「文化資本」としての付加価値を生み出し、地域活力の再生へ活用することで、地域

住民が住みよいわが町を誇りに思い、地域外からの交流人口を呼び込むことができる有効な手段であると言える。そこで、飛騨一之宮地域で「若者による一之宮地域文化の再発見事業」を企画することになり、本学がその事業を支援することになった。

この「飛騨一之宮地域」は、高山市のほぼ中央に位置する「高山市一之宮町」で、この町の南にそびえる位山山脈は中部日本の分水嶺を成しており、一方は宮川・神通川を経て日本海へ、もう一方は飛騨川・木曾川を経て太平洋へ注いでいる。飛騨人の心の拠り所「飛騨一宮水無神社」、千年の時を越えて咲き誇る「臥龍桜」が有名である。

この飛騨一之宮地域の歴史・文化・産業等を大学生の視点で見ることにより、飛騨一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行い、地域として継承していくべき文化や地域資源を地域として再評価するとともに、受け継ぐべき文化や地域資源の発展的継承方法や活用方法を検討し、地域の活性化につなげるために、平成22年度から3か年にわたり、飛騨一之宮地域文化の再評価と、地域の活性化について「若者による一之宮地域文化の再発見事業」を実施している。

本事業は、次のような計画で実施を計画している。

【平成22年度事業（実績）】

- (1) 地域文化のデジタル・アーカイブ化
- (2) 地域文化に関する住民の意識調査
- (3) 地域文化交流会の開催

【平成23年度事業（計画）】

前年度事業による取りまとめた地域の文化や資源について、大学生と地域住民とによるワークショップ等を開催する中で、地域が主体となって再評価し、地域として継承していくべき文化や地域資源の発展的継承方法を検討、試案を作成し、共同の報告書としてまとめる。

- (1) 地域デジタル・アーカイブの作成
- (2) 地域・大学協働による地域文化・資源の再評価、継承・活用方法の検討・試案作成
 - ・地域住民とのワークショップの開催
 - ・地域文化・資源の再評価
 - ・地域文化・資源の継承・活用方法の検討、試案作成

(3) 報告書の作成

【平成24年度事業（予定）】

前年度事業により検討した地域文化・資源の発展的継承案や活用案の中から、大学生と地域との連携により、具体的に取り組めるメニューを選択・事業化し、実証実験を行う。

- (1) 地域の Web 制作
- (2) 飛騨一之宮地域文化のガイドブックの作成
- (3) シンポジウムの開催

平成23年度は、これらの「飛騨一之宮地域」における地域資料の記録からの考察をするために、地域の有識者や中高生、大学生により推進会議を設置し、推進することにした。

4. 地域の文化遺伝子の抽出

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する住民にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ触媒として地域に輝きをもたらす。本事業では特に、地域資料を通じて地域の文化遺伝子を再発見するものとして実施した。地域の文化遺伝子（ミーム（meme））とは、文化を形成する様々な情報であり、人々の間で心から心へと伝達や複製をされる情報の基本単位を表す概念で、動物行動学者、進化生物学者であるリチャード・ドーキンスが、1976年に *The Selfish Gene*（邦題『利己的な遺伝子』）という本の中で作られたものである。

各々の地域では、有史以来、経験し、蓄積してきた多くの歴史的事象が存在する。その中でも、地域の人々により、時には労力を出し、資金を出し、精神を発揮して、これら歴史的な事象を、祭りをはじめ、民俗芸能、遺構、伝承、あるいは町並みなどとして、大切に守り育て、受け継いできているものがある。

このように数ある地域の歴史的な事象の中で、地域の人々によって受け継ぎ、守り育てられてきた「地域固有の精神文化」こそ「文化遺伝子」である。

そこで、様々な地域文化のうち、（主に明治期以前から）長い年月を経て、守り受け継がれてきている「地域固有の精神文化」に着目し、これを「文化遺伝子」と定義した。

ここで、文化遺伝子の基本情報を次のよう

に構成する。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 主題となる資料 (例) 主となる文化財の映像の収集（撮影）資料の構成（獅子舞、踊り方）(2) 歴史的背景 (例) 主題の歴史的背景について調べ教材化、（水無神社、位山街道、伝えられた背景状況、歴史的資料など）(3) 地域の人々の話 (例) 地域の人々の思い、専門家の研究等の記録（オーラルヒストリー）(4) 関連資料 (例) 他の関連文化財（活動）、説明資料など（水無神社と関連のある映像・説明） |
|---|

地域の歴史・祭り・文化資源等が現在にまで残り、受け継がれているのには理由があり、受け継ぎ、守り育てるために様々な努力（取り組み）がなされている。

このように「文化遺伝子」が地域住民の中で共有できている地域においては、時代が変わり、社会システムが変貌しようとも、今後とも個性ある人づくり、地域づくりが継続できるものであると考えられる。更には、地域の文化遺伝子を持った人々により地域づくりが行われていくことは、これからの持続可能な社会の形成、豊かな人の感性や作法を生み出すばかりではなく、地域コミュニティの再生・活性化、観光や新産業といった地域振興にも大きく寄与できるものである。

5. 地域情報の構造化

地域情報は地域の財産であり、地域で活動する多様な主体にとっても、過去と未来をつなぐ知の集積として記録され、活用され、発信される価値を持つものである。それらが、地域のコミュニティをより豊かにし、新たに人と人、人と地域をつなぐ、触媒として地域に輝きをもたらす。このために地域情報の基本となる地域資料のデジタル・アーカイブを行った。

飛騨一之宮地域文化資料（活動）のデジタル・アーカイブの基本構成として、次の4つのカテゴリーに分けてアーカイブした。

(1) 生活文化（衣・食・住）

①先人・教え

- ・地域ゆかりの偉人の業績や教え。
- ・歴史上の人物のゆかりの地であること。
- ・地域ゆかりの組織（例えば地域の歴史文化を継承する人々など）。
- ・歴史上の人物個人ではなく、これら人物を多数輩出してきた地であること。

②地域文化

- ・地域独自(雪国)の生活文化を現在まで受け継いでいること。
- ・地域の長い間受け継がれてきた教えを現在まで受け継いでいること。
- ・歌（和歌や俳句，連歌など）が多数読まれた地であることや、これら文化に関連の深い地であること。

(2) 伝統文化（獅子舞・祭り・水無神社など）

①出来事・発祥

- ・歴史のターニングポイントとなるような出来事が起こった地であること、またはその出来事に由来する史跡等が存在すること。
- ・文化的な事項（音楽など）の発祥の地であること。

②拠点・要衝

- ・各時代における地域の中心・拠点として繁栄した地であったこと。
- ・交通や物流の要衝として繁栄した地であったこと。

③町並み・史跡

- ・歴史的な建造物や構造物，町並みが残っている、またはこれら資源を守り受け継いでいること。
- ・歴史上価値の高い史跡を有している、またはこれら史跡を多く有していること。

④伝統芸能・祭り

- ・風俗慣習や祭礼行事，民俗芸能を現代まで継承していること。

⑤神話・伝説

- ・日本創生の神話や諸伝説にかかわる地であること、またはその神話・伝説に係わる史跡等が存在すること。

(3) 自然（グリーンツーリズム・臥龍桜・巨石・巨木など）

- ・地域の自然として、臥龍桜や巨石，巨木
- ・雪国の自然の風景や風物


(4) 産業（農業・林業・かさ・まゆびな・工芸品など）

- ・日本を代表する産業や伝統工芸が興った地であること。
- ・近代産業の中心地であること。

この地域情報を基に、先に示した地域の文化遺伝子の各基本情報(メタ情報)をまとめることが必要となる。

そのために、文化遺伝子の基本情報を記入する基本情報シートを作成し、静止画や動画情報とともに記録，管理することにした。

表1 基本情報調査票

| | |
|--|---|
| 調査項目 | 飛騨一之宮獅子舞 |
| 位置情報 | 緯度+36° 5' 21.20", 経度+137° 14' 50.56" |
| 調査内容 (①②は小学校3・4年生が分かる言葉で表記。③は教師が参考にするを想定。) | |
| ①歴史 (作られた時代、これまでの歩みなど) | ・金蔵獅子・振獅子は古くから傳承されている。 ・伊勢神楽の獅子は幕末に伝わったと言われている。 |
| ②特色 | 種類：金蔵獅子・振獅子(男)・伊勢神楽の獅子(女)の三つ 金蔵獅子・振獅子は、北陸系のものである。 |
| ③関連資料 (本やWeb, 報告書など。村史○ページ) | 宮村史 P355～P360  |

ここでは、文化遺伝子の抽出については、地域の方を中心に委員会を組織し抽出する。

6. 地域資料のデータベース

特定の地域資料のデジタル・アーカイブを行うためには、岐阜女子大学で提案している地域資料データベース記録項目を基準としてメタ情報を作成することが重要である。

地域資料デジタル・アーカイブを行う場合、地域の地図などを利用しての位置情報に関するデータは重要である。また、新しい町づくりが行われたときに、新しい町の区画整理された場合に、地域資料に対しての戸籍を残していくことが大切である。その資料が「どこで」撮影されたか、またはどこに存在しているのか、つまり場所という領域を示している。このように、地域資料を記録するためには、いくつかの領域に従って纏めるべきである。

この視点で、地域資料の記録に必要な領域として、「何を」「どこで」「いつ」「どのような方法で」「だれが」「許可」(を得て撮影記録したか)、を取り上げ、設定した。これら各領域に属する情報を記録することにより、後世への地域の記録の継承、今後の地域教育活動、伝統文化学習、さらに提示資料の開発や共有を行うなど、適切な地域資料の利用に供することができる。

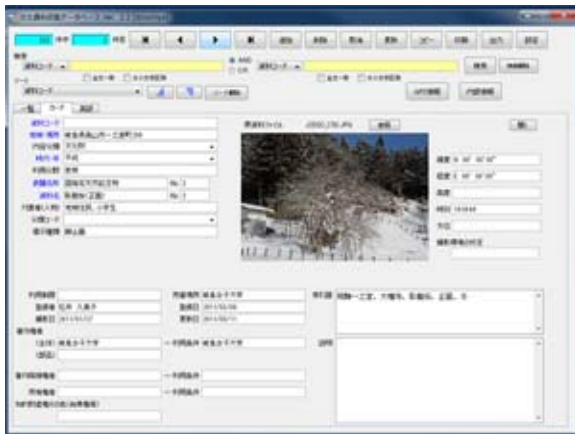


図5 飛騨一之宮地域データベース

そこで、地域資料を記録するデータベースの記録項目にあたっては、これらの視点で整備し、次のような記録項目の検討を行い、試案を作成している

(a) 「何を」・・・内容

タイトル(表題名称, 提示資料名), 内容分類, キーワード(索引語), 説明など, 資料の内容にかかわる情報があてはまる。

(b) 「どこで」・・・場所

地域資料のデジタル・アーカイブにおいて、

特に重要であると考え、主として取り上げた位置情報カテゴリーにあたる領域である。緯度、経度、高度、方向、地図および地名、施設名などを示す。緯度、経度、標高についてはGPSのデータを利用するため、GPSのデータを記録する際にその精度と関連して必要とされる、地球上の位置を座標で表す前提条件である[測地系]を項目として追加した。

(c) 「いつ」・・・日時

対象となる地域資料の記録の撮影年月日、時刻の項目を示す。必要に応じてGPSのデータを利用する。

(d) 「どのような方法」

地域資料の撮影記録の方法や撮影の状況などの記録項目を示す。とくに、位置情報の記録としては、対象となる資料を撮影したデータを「撮影データ」、撮影している状況を撮影したデータを「撮影状況データ」とした。また、それらの位置関係を示す図(地図など)も位置付けた。

その他、周囲の様子を記録した360°全方位撮影や多方向映像などを併せて記録するとよい。

(e) 「だれが」

撮影に関わる機関名または撮影者、データの登録者などを示

(f) 「許可」

著作権, 所有権, プライバシーなどの権利をもつ団体, 個人などを示し, さらに, 利用に関する許諾の有無を示す。

7. おわりに

以上、デジタル・アーカイブは、文化財、文化活動を美しい映像や資料で後世に残すことも必要であるが、現実を正しく後世に残すことが最も重要である。また、これらのデジタル・アーカイブ化された映像を使った“知”の伝承サイクルにより新しい文化の創造へ発展をさせる機能を持つ必要がある。

この論文・資料の作成にあたっては、岐阜女子大学の後藤忠彦教授の指導により行った。また、高山市一之宮支所長である能登部佳幸氏には撮影の機会を与えていただいたことに厚く感謝の意を表します。